

避難民及び難民を生み出す政治危機へのソーシャルワーク対応

国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）声明文

世界ソーシャルワーク・デイ 2016年3月15日

ウィーン

本日、避難民及び難民を生み出す政治危機へのソーシャルワーク対応を強化する計画を形成するために、26カ国からソーシャルワーカーと難民の代表者が会議しました。参加者は、以下の5項目からなる行動計画を作成しました：

1. 各国における移動、通過、統合に関する難民のニーズに対するより良い理解と対応に向けて、影響を受けている全ての国においてソーシャルワーカーによるアクションをコーディネートする。
2. 保護者のいない子どもや若者、高齢者、健康問題を抱える人々、人身取引被害者などの弱い立場に置かれている社会集団を支援する集中戦略を実行する。
3. 難民のニーズ、希望、解決策について「ボトムアップ」の視点を反映する包括的な政治的アドボカシー戦略を立てる。
4. 他の形態の支援がなく孤立している、あるいは生命の危機が発生している状況におかれている難民を支援するソーシャルワーク・モデルを開発する。これは、ますます多くの難民が閉ざされた国境や敵対的な受け入れコミュニティに、また、歓迎されない場所に残るか、それとも死亡に至るかもしれない戦争実態に戻るかという過酷な葛藤に直面していることへの配慮を含む。
5. 包摂的で、結束のある社会を築くために、他の人々と協働できるソーシャルワーカーのスキルを高める。

政治的な結束の欠如が、移動の過程において、あるいは亡命国における将来的な統合において、また戦争地帯への帰還による影響に直面している中で、本危機の影響を受けている人々の尊厳を過小評価してきたと参加者の意見が一致しました。

ソーシャルワーカーは、これからの成果を最大限にするために、全ての他機関や専門職団体と連携していきます。この「ボトムアップ」の取り組みは、各国政府が我々と協働するためのきっかけになることを願います。

難民は無力ではありません。相当な資源、スキル、ストレングスを持ち、健康であり、教育を受けてきています。このような人的資源は社会を再建するための基盤となるべきです。これは、社会を再建する人々に働きかけてきたこれまでの世界中のソーシャルワーク介入から得られているエビデンスから明らかになっています。ソーシャルワーカーは、人間の尊厳を守り、難民キャンプにおいて人々は尊厳と尊重をもって扱われることを保障し、コミュニティと社会的な自立を強化し、

そして何よりも、自分たちの将来を巡る意思決定に人々を参画させるために、諸機関や各国政府と協働し続けます。

直接的な特化したサービスを提供すると共に、ソーシャルワーカーは、政治的な対応が、短期的な危機の先をみななければならないとアドボケートしていきます。国連によって新しく制定された持続可能な開発目標（SDGs）が描いているように、持続的な発展を可能とする世界状況を作ることには焦点をおかなければなりません。社会資源と社会正義の成立は、平和で、経済的な側面の存立できる持続可能な社会に向けて前提となります。

本シンポジウムの成果として、戦争国、通過国、亡命国で活動しているソーシャルワーカーの間により強い連携が出来ました。保護者のいない子ども、人身取引被害者、虐待の被害者、障がい者、一人親のように、最も脆弱な社会集団を支援するための主要な手段が決まりました。世界中で難民を対象に実践しているソーシャルワーカーのための手助けが形成されつつあります。

ソーシャルワーカーは、危機の原因を理解するために、国際的な連帯を築いてきた経験を通じて得た専門性に対する理解を求めて、マスコミと政治家を巻き込んでいきます。参加者は、専門職が、社会的に持続可能で平和な社会を達成するように紛争を緩和するための社会的及び政治的行動に関わる責任をもっていると確認しました。

詳細な情報：www.ifsw.org



以上